名古屋西南ロータリークラブ
Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ
継続は力、協力は強力
例会場　名古屋クレストンホテル　TEL　052-264-8000
例会日時　木曜日　12:30
クラブ会報広報委員長　二俣景一

2006-07 年度 R.I.会長
ウィリアム B. ボイド

承 認　1995.3.28
会 長　安江英雄
幹 事　後藤　敞

事務局　名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL　052-263-1324
FAX　052-263-0730
Email　seinan1@fancy.ocn.ne.jp
HP　http://rc.nagoya-seinan.org/

第550回例会　No. 11　平成18年9月22日(金)　晴	
ガバナー公式訪問	
名古屋みなとRC合同例会＝於　名古屋ﾏﾘｵｯﾄｱｿｼｱﾎﾃﾙ	
■　ﾛｰﾀﾘｰｿﾝｸﾞ	「それでこそロータリー」
■　出席報告	会員48名中27名出席
■　出席率	60%　出席計算人数45名
■　修正出席率	9月7日　95.56%
■　ゲスト	斎藤直美第2760地区ガバナー 藤井伸三第2760地区幹事
■　ビジター	京都RC中山永次郎さん以下 69 名

会長挨拶　　名古屋みなとRC会長　野村順雄

「一点鐘」

本日は**国際ロータリー第2760地区斎藤直美ガバナー**、藤井伸三地区幹事様を西南ロータリークラブと合同でお迎えし、先程來、ロータリーの原点回帰の話を受けたまわりました。この場を借りてあらためてお礼申し上げます。今日は原点回帰と言うことで、これが源点回帰の真の意味ではないかもしれませんが、お鐘に関するお話をしたいと思います。これは現金回帰かな？

勘違いしないで下さい。こっちのお金の話ではありません。例会の始めに叩く鐘にまつわるお話をさせて頂きます。**ロータリークラブの例会で叩く鐘は**どんな鐘でもいいのです。9 月 19 日に軍によるクーデターで戒厳令がしかれていますタイのチェンマイのクラブではこんな大きな銅鑼を叩いていました。昔は船員に作業の交代を知らせるためにこのような鐘をたたいていたそうです。

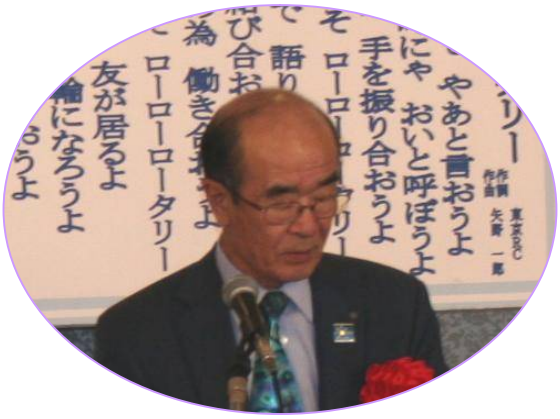
僕はこの話をコンテッサのクルーになったとき石原慎太郎さんから教えていただきました。

船の上ではワッチを組みます。午前0時から4時までの時間帯をミッドナイトワッチといいます。その後4時間ごとにモーニングワッチ。ヌーンワッチ。アフタヌーンワッチ。イブニングワッチ。ナイトワッチと続きます。**なぜこのようなワッチを組むのかと言いますと、**船は24時間休みなしで運行しなければならないからです。ですからクルーは交代制で仕事をします。デッキで作業する班は 4 時間連続して作業をします。次のワッチは休憩します。そして次のワッチでは睡眠を取ります。さらに次のワッチでは食事の準備などをします。**このように4交代制でワッチを組むことによって**、24時間休みなく運行することができるのです。6 つのワッチを 4 交代で作業しますので睡眠時間帯もずれてきます。ですから航海中の睡眠時間は必ずミッドナイトとはかぎりません。お昼のヌーンワッチに睡眠をとらねばならないこともあります。こうすることによってクルーの作業時間帯や睡眠時間帯は公平になります。ヨットレースの場合は体力の消耗が激しいため、3 時間でワッチを組みます。そして同じようなシステムでヨットのクルーは作業を分担します。**このワッチの交代**を知らせるために鐘をたたきます。ワッチの終了時、つまり深夜の0時、夜明け前の午前4時、朝の8時、昼の12時、午後4時　夜8時に鐘を8回叩きワッチの終了を知らせます。これを8点鐘と言います。石原慎太郎さんはこのような船員のワッチ暮らしを「8点鐘」という本に書いています。

ところで、世界のロータリークラブでは12時半から例会が始まるのが圧倒的に多いようです。12時から始まるクラブはほとんどありません。なぜだと思いますか。実はこの12時30分に大変意味があるのです。船の上では、お昼の12時に8点鐘によってヌーンワッチが終了します。そして30分経過した12時30分には鐘を1回叩きます。1時には鐘を 2 回たたきます。この習慣をロータリーが取り入れたのです。**しかし、ロータリークラブの規則には鐘のたたく回数は**決められておりません。片山ガバナー補佐がおっしゃったように3回叩いてもいいのです。また例会の開始時間はクラブによって決められていますが、終了時間は決められていません。私は世界のロータリークラブをこれまで20回以上訪問しましたが、1時間で終わったクラブはほとんどありません。平均的には2時間から3時間開催されています。何時までやってもいいのです。スペインや、ローマのクラブでは4時間ぐらい開催していました。世界で唯一ロータリーの終了時間が決められている国があります。それは台湾だけです。みなとロータリーもクラブの規則にはきまっていません。とうぜん RI の規則でもきまっていません。しかしホテルとの使用契約が1時30までとなっていますので1時30分にきっちりと終わりたいと思っています。安心してください。延長しません。**さてそれでは1時半の例会終了時には**何回鐘をたたけばいいとおもわれますか。船乗りの習慣に随えば3回叩くのが正しいのです。今日だけ片山主水ガバナー補佐に見習って西南ロータリークラブの安江会長に3回叩いて頂きたいのですがどうでしょうか。次回から1回にします。

ニコBOX
●本日は「ガバナー公式訪問」です。斎藤ガバナー、藤井地区幹事、みなとRCの皆さん宜しくお願い致します。安江会長、後藤幹事、日下、藤野、長谷川千廣、水野、和田、岩田、磯部、服部、加藤、長谷川龍伸、松尾、林、藤田、鈴原、渡邉、石井、中川(敬称略)
本日合計　38,000円
日下さん　本日は「敬老祝例会」です。今年70歳になられる川合勝義さん、矢野雄三さん、浮貝文雄さんおめでとうございます。(9月14日例会ウィークリー記載漏れでした。心よりお詫び申し上げます。)

ガバナー講話
第2760地区ガバナー　斎藤直美



さて私はRI会長ビル・ボイドさんのテーマを皆様にお伝えし、協力をお願いするのが、私の役目であります。
2月16日、アメリカ・サンディエゴのホテルの国際会議場で発表されました。Lead the Way「率先しよう」であります。同時に4つの強調事項も発表されました。解り易くてよかったとガバナー仲間では好評でした。ところがリーダー格のパストガバナーから最近の会長テーマは前年度を意識した延長線上にあるテーマと考えるとよいと発言がありました。なるほどRIのグローバル化したプログラムは継続性が必要です。人材の継続も必要です。そうしますとLead the Wayは昨年のテーマ、ステンハマー会長さんの“Service above self”を意識したものと考えなくてはいけないのであります。
ご存知のようにService above self(超我の奉仕)(自己研讃の奉仕)は第1標語(モットー)であります。ロータリー哲学、ロータリー思想の原点と解釈されています。そうしますと昨年と今年のテーマの連続性から、「よく考えてから率先してください」とLead the Wayは読み取れるのではないでしょうか。RIの奉仕プログラムはグローバル化され、日本人の我々には身近なテーマ、地域のテーマとして考えにくく、扱いにくくなっています。そのため、どうしても腰が引けてしまいます。その時は、そのプログラムをもう一度考え直して、足を止めクラブ奉仕の延長線上のテーマとして思考するならクラブとして個人として扱えるかどうかを検討する必要があると思います。ところで何故クラブ奉仕の延長線上なのかを深く考えてみなくてはなりません。よくロータリーは職業奉仕だといわれています。しかし私は最近若い経営者とお喋りをするうちに職業奉仕を理解していることがロータリアンとして入会してもらうための前提条件だと思うようになりました。若い彼等は職業奉仕の何たるかを別の言葉で知っています。だからこそ成功し発展し続ける企業のトップリーダーとしてロータリーにpick upされロータリー運動に参加できるわけです。ですから職業奉仕を理解していることは入会の前提条件と考えるようになったわけです。
そしてひとたびロータリーに入会させていただいたからには、試練の場が待っています。ロータリーの何たるかを学習しなければなりません。
その学習の場が例会場でありますから例会出席を厳しく問われるわけです。例会に出席し、自分の情報をメンバーに発信してあげる、メンバーから情報を頂戴する。その行為が職業奉仕を兼ねたクラブ奉仕と考えられています。メンバーがメンバーになる必要条件がこの例会出席という義務であります。例会出席は例会づくりでもあります。自分で例会を演出し楽しい例会の協同作業を行なっているのです。そして次にあふれる思いが出れば(御縁があれば)社会奉仕や国際奉仕に個人として手を染めてゆくことになるのですからクラブ奉仕の延長線上にあると申し上げるわけです。社会奉仕・国際奉仕に参加してこそロータリアンとして十分条件を満たすことになろうかと思います。
この十分条件を満たすためのテーマがRI会長の4つ強調事項への参加であります。
①水保全　②保険と飢餓　③識字率の向上　④ロータリー家族
この4つのうちどれか1つに手を染めてください。そしたらロータリアンとして十分条件を満たすことになります。と訴えておられます。
しかし、クラブにはクラブの歴史と未来へ向けての奉仕の方針があります。個人には個人の人生観があります。四つの強調事項にどう取り組むかは、クラブ毎にロータリアン毎に考えればよい事だと思います。この時に「ロータリー運動とは何ぞや？」です。(決議23－34号に明記)ロータリーを考えていくと、この「何ぞや？」の壁にぶち当たります。PGの森泰樹先生は「ロータリーは人生の余白」とおっしゃっています。この余白に何かを書くことが望ましいのではないでしょうか？
それがロータリアンではないかと思います。人生の余白に何を書くか、それはあなたの、私の宿題です。
私の好きな言語にロータリアンフェイスという言葉があります。町で、飛行場で、車中で、まことに柔和な微笑をたたえたお顔の人に会うことがあります。そんなお顔「ロータリアンフェイス」の自分になりたいものです。
それは人生の余白に何かを書くから落書きするから出来るお顔でしょうか・・・・・。
駄弁を労しました。御静聴有難うございました。

☆☆次回例会のご案内☆☆☆